

千葉 あいご

Vol.
80

Index

- ① 令和3年度障害者支援施設部会施設長研修会
- ② 「県知的障害者福祉協会権利擁護委員会研修会」報告
- ③ 「県知的障害者福祉協会支援スタッフ部会研修会」報告
- ④ 第49回「手をつなぐ作品展」報告
- ⑤ 新事業所紹介
- ⑥ わが施設の自慢・アピールポイント[®]
- ⑦ 千葉知協トピックス
- ⑧ 事務局だより・編集後記

第80号 (2022年3月号)

発行日：2022年3月20日／発行者：里見吉英／編集者：畠山正昭・菅谷大輔・秋山直樹

発行所：千葉県知的障害者福祉協会

【本部】 千葉市中央区中央3-15-6 山長（ヤマチヨウ）ビル4F TEL 043-224-5721 HP <http://caid-net.com/>

【事務局】 船橋市金堀町499-1 大久保学園内 TEL 047-457-2462

令和3年度 障害者支援施設部会施設長研修会

令和3年12月6日に、千葉県教育会館にて障害者支援施設部会施設長研修会が開催され57名が参加いたしました。今回の研修では県より「暮らしの場支援会議」の現状についての説明と障害者支援施設部会のアンケート集計結果を基に意見交換が行われました。

「暮らしの場支援会議」の現状については、千葉県健康福祉部障害福祉事業課 県立施設改革班長千代田優基氏より、「暮らしの場支援会議」設置の背景として、県では千葉県袖ヶ浦福祉センターで平成25年に起きた事件を受け、見直しを図ってきましたが、利用者のご家族や県内の知的障害の支援関係者による「袖ヶ浦福祉センター検討会議」において重度の強度行動障害のある方への支援について、現在の大規模集約ケアの県立施設による一極集中の支援ではなく、各地域の民間施設に分散して受け入れ、個々に応じたきめ細やかなケアを行うことで個人個人に合った暮らしが確保できると意見が整理されました。これを受け、県では障害福祉分野の有識者や民間施設関係者等と協議を重ねた結果、重度の強度



千葉県健康福祉部障害福祉事業課
県立施設改革班長 千代田優基氏

個人に合った暮らしが確保できると意見が整理されました。これを受け、県では障害福祉分野の有識者や民間施設関係者等と協議を重ねた結果、重度の強度

行動障害のある方が各地域で必要な支援を受けられるシステムを構築することとなりました。県としては、これをもって袖ヶ浦福祉センターの県立施設としての役割は終息するものと考え、利用者全員の移行を行おうと。令和4年度末までに廃止することとしました。「暮らしの場支援会議」は令和2年10月に設置され、強度行動障害支援の有識者、民間施設、相談事業所関係者、医療関係者等の13名で構成されており、県内の重度の強度行動障害のある方が、各地域において一人ひとりの障害特性に合った支援が受けられるよう、市町村から入所調整等の依頼があつた支援対象者について、支援度の判定、短期入所等を通じたアセスメント、受け入れ先の調整及び継続的なフォローアップまでを行うものであります。対象者は市町村から依頼があり、18歳以上で①行動関連項目18点以上の強度行動障害のある在宅等の待機者、②県独自の基準を点数化した支援度関連項目18点以上の強度行動障害のある在宅等の待機者、③その他、突出した障害を抱えている等により市町村が特に必要と認めた者となっております。令和3年12月6日時点で市町村から17名の依頼を受けており、対象者の実態調査や入所調整を進めております。また、対象者を受け入れる事業所については11法人19事業所が登録されていますが、まだ受け入れ先が少ない状況であり、今後も県内の事業所に幅広く登録をお願いしているところでもあります。

アンケート集計結果を基にした意見交換では、3つのグループに分かれ、ユニット・個室化の現状や職員の健康管理・福利厚生・キャリアパスについて、また、強度行動障害の加算取得についてなど意見交換がされました。久しぶりに対面での研修であり、限られた時間でしたが活発な意見交換や情報共有ができたのではないかと感じました。

「県知的障害者福祉協会 権利擁護委員会研修会」報告

「現場の職員にもわかる虐待防止委員会の組織づくりを学ぶ研修」に参加して

社会福祉法人 清郷会 十倉厚生園

支援員 志村 昌明

障害者施設に働き始めて2年が過ぎようとしています。未だテレビで「虐待」「いじめ」による事件が報道されています。

私は、40歳を過ぎて初めて福祉の仕事につき「虐待」の言葉を聞き、友達のお兄さん（身体障害）を思い出しました。まだあの頃は私自身を含めて、障害に対する知識・理解が乏しい時代で、偏見も多く、今思い返せば障害を持つ友達のお兄さんは勿論、きつとご家族を含め嫌な思いを数多くしたと思います。今回研修において、虐待とは？「身体的虐待」「ネグレクト」「心理的虐待」「性的虐待」「経済的虐待」の5つについて改めて学びました。支援者の場合「身体的虐待」「心理的虐待」が極めて突出し、次に性的虐待が多く見られ、擁護者・支援者ともに40歳以上で男性が60%超、30歳以下の支援者も一定数の虐待事案のデータが出ており、40代の私も該当する訳であり、尚一層の気の引き締めを感じました。

我が国では平成23年6月に障害者虐待防止法が成立し平成24年10月から施行されました。令和4年度からは①従事者への研修実施。②虐待防止のための対策を検討する委員会としての虐待防止委員会を設立し、委員会での検討結果を従事者に周知する。③虐待の防止等の為の責任者の設置等これまで努力義務だったものが、義務化となります。加えて身体拘束等の適正化の

推進も明記されました。私が思うに職員の虐待の主な要因の一つに、職員のストレスが起因していると考えます。

例えばストレスを溜めた状態で支援にあたっている場合、空間的認識（密室的空間は人の目が疎かになり易い）の中で、虐待に発展してしまうケースが起り易いのだと思います。まずは、職員が悩みを抱え込まず、ストレスを溜めない様、職員関係や労働環境を整える事が大切だと思えます。当園ではそれらを含めた対応として「権利擁護委員会」を設置して取り組んでいます。

憲法には「基本的人権」が明記され、また昨今その取り組みなどが国連においても議題になっています。

まだ経験が浅く、知識や支援方法等学ぶべき点が多くありますが、先ず私が取り組むべきは、利用者さんが生活を営む上での支援において、人権人格を尊重する意識を常に持つ事です。1人の人として接することは、人の尊厳やプライバシーを尊重することに繋がると思っています。同時に障害の特性を正しく理解し学ぶ事が、ひいては生活されている利用者さんの生活の質の向上に結び付くと思うのです。要は「自分がされて嫌な事は、人にはしない」の精神に尽きるのではないのでしょうか。言葉では簡単に言えることですが、この研修で学んだことを、これからの実践の中に活かしていきたいと強く思います。

「現場の職員にもわかる虐待防止委員会の組織づくりを学ぶ研修」に参加して

社会福祉法人愛光 障害者支援施設めいわ

生活支援員 飛松 史秀

今回の研修に参加しての記述をする前に、普段から福祉に関わっている人間として常日頃から

ら思っていることがあります。今回のような虐待に関する話題を取り扱う際に常態的に使われる言葉として「社会的弱者」という言葉があります。「社会的弱者」の中には障害者をはじめ、高齢者や児童、女性、生活保護受給者等大多数において少数、不利益を被りやすい等さまざまな意味合いが含まれていますが、私はこの言葉が個人的に好きではありません。「社会的弱者」と聞いて感じるイメージとして、自分では何もできない人、立場が弱い人等のイメージがわいてきます。しかし、そのイメージは周りの人間が勝手に抱いているイメージであり、理解が追い付いていないだけだと個人的に思っています。つまるところ、相手を下に見ている事の現れのような気がしてなりません。

今回の研修で一番に残った内容として「虐待防止委員会の設置は利用者支援の質が向上する事につながる」との一言でした。私は現在障害者支援施設で働いていますが、利用者支援の質を上げるためにはその方を理解する必要があると常日頃から感じていました。理解するためには、その方の障害特性や生い立ち、趣味嗜好等あらゆる方面からのアプローチによって初めてその入り口に立つことになり、そして、そこで決めつけず、常に変化していくその方へのアプローチを継続していくことが理解を深めることにつながるのではないかと思います。利用者支援においても相手を尊重し一人の人間として相対する事、さらに、現場で働く全員で統一した方向性を共有し、風通しの良い雰囲気を作る事こそが、更なる支援の質の向上につながると思えます。

また、研修の中で虐待を受けやすい人、逆に虐待を起こしやすい人の具体的な傾向を知ることが出来ました。受けやすい人とは起こしやすい人のターゲットになりやすい人と言ひ換えられると思います。起こしやすい人には技術や知

識不足、ストレスの蓄積等様々な要因があるとのことでしたが、その中でも職場環境に起因する部分も多くあることを知ることでできました。職場内での風通しを良くすることで上記の虐待に繋がる環境因子を取り除くことができ、そのためにも虐待防止委員会の設置が重要だと学ぶことが出来ました。

最後に今回の研修で学ぶことが出来た内容を職場で共に働く仲間へ伝えていくと共に、「社会的弱者」という概念が無くなる様自分なりに行動していきたいと思えます。

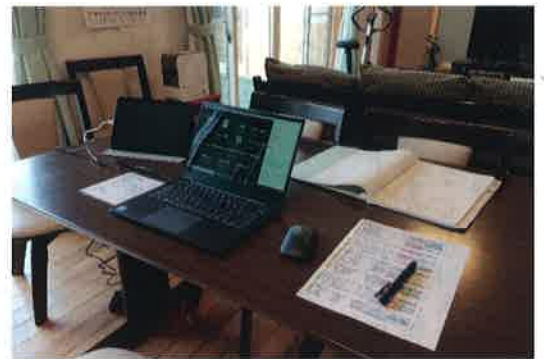
「県知的障害者福祉協会 支援スタッフ部会研修会」報告

支援スタッフ部会では、去る12月10日(金)、代表者会議及び学習会をオンラインにて開催いたしました。初めてZoomを使用したオンライン開催でしたが、45名の代表者の方々の参加を頂きました。

内容は、前半の代表者会議にて各ブロック及び機能別委員会の間活動報告、後半の学習会では「コロナ禍の支援業務の経験を共有しよう」と題して、オンライン上でワールドカフェ形式風のグループ討議を行いました。

グループ討議では、ワールドカフェ風ということで、3つのセッション毎にランダムにブレイクアウトルームを設定して実施しましたが、運営側がまだZoomの操作方法に不慣れで、グループを変えても顔ぶれがあまり変わらない箇所ができてしまい、ご迷惑をおかけしてしまいました。操作方法については、回数を重ねて研鑽していく必要があります。ただ、オンラインとは言え、久しぶりの顔合わせでしたので、話は盛り上がり、積極的な情報交換ができたようです。

さて、支援スタッフ部会の主たる活動目的は、



職員間の交流です。コロナ禍で一切の活動を見合わせておりましたが、このままではよろしくないと考え、部会独自のZoomアカウントを作成し、誰もが使用できる環境を整えました。部会全体の活動だけでなく、各ブロックの会議や研修にも活用できます。他県の研修では、

オンライン施設見学会なども実施していました。また、移動の時間が省けるため、会議や研修等の準備の都合等、通所利用者が帰宅した後などの時間を活用して、より頻繁に開催し、綿密な準備ができるというメリットもあります。他県では、曜日を決めてミーティングルームを常時開設し、部会や機能別委員会を毎週のように開催している例もあるようです。活用したいという方は、ピア宮敷 鶴岡までご連絡下さい。

ただ、私たちは対人支援で利用者の生活を支えるのが本分であり、会議や研修は顔と顔を突き合わせる、時には飲食も伴いながら情報交歓したいものです。まだまだ油断はできないとは言え、COVID19は劇症型から変化してきており、ワクチンも普及し、内服薬も開発されつつあります。いずれは新型コロナウイルスの扱いが変更され、コロナ禍以前とはいかないまでも、会議や研修もこれまで通りに開催されるようになると思います。利用者も職員も皆が元気でその日を迎えられるよう、感染予防対策を徹底し、日々の業務に向かいたいと思えます。

ピア宮敷 鶴岡 秀隆

第49回「手をつなぐ作品展」報告



中部地区 ユニモちはら台での様子

新型コロナウイルス感染症拡大で気が休まらない中ではありますが、毎年恒例の手をつなぐ作品展の開催が、3地区全てで無事開催する事が出来たことを大変うれしく思います。ご協力頂きました関係者の皆様には心より感謝申し上げます。手をつなぐ作品展は、作業活動の中から生まれた創作作品を広く社会に紹介することへの理解と関心を深めることを目的としています。今回、多くのお客様より「頑張って下さい、毎年楽しみにしています。」とのとても暖かくありがたいお言葉を頂きました。このお言葉を受け、今後もより広く社会に伝えていく重要性と可能性を感じました。

開催するにあたり、毎年会場の提供をして頂いているイオン様、ユニモ様をはじめ、ご参加頂いております各施設関係者のご協力のおかげで、手をつなぐ作品展が開催出来ております。心からご協力を深く感謝し、今後もまた工夫を凝らした作品を、皆様にご覧頂きたいと思えます。どうぞ今後とも宜しくお願い致します。

広報委員 新井 弘輝

第49回 開催報告

南部地区	中部地区	北部地区
開催日/令和4年2月25日(金)~27日(日)	開催日/令和4年2月18日(金)~20日(日)	開催日/令和4年1月24日(月)~26日(水)
会場/イオンモール富津	会場/ユニモちはら台	会場/イオンモール八千代緑が丘
売上/約50万円	売上/約62万円	売上/約103万円

新事業所紹介

特定非営利活動法人あおぞら あおぞら三崎・ 相談支援センター 結

「あおぞらに関わるすべての人にとって
ハッピーな場所になるように」

令和3年2月に多機能型事業所（生活介護・就労継続支援B型）と単独短期入所事業所、相談支援事業所が一体となった施設として、銚子市三崎町に開所いたしました。眼下には太平洋が一望でき、周囲はキャベツ畑（夏にはひまわり）に囲まれとてもどかな見晴らしの良い場所に立地しています。

生活介護では、基本的な生活習慣の介助や余暇活動、創作活動、生産活動の機会を提供しています。利用者の方々に充実した日中活動を提供し笑顔で過ごしていただきたいという理念のもと、職員が試行錯誤しながら四季折々の行事を



あおぞら三崎 外観

考え、利用者の方と共に楽しい時間を過ごせるように頑張っています。就労継続支援B型では、銚子市の温暖な氣候に合わせた花や多肉植物を温室ハウス内で栽培する園芸作業を中心にこなっています。年数回、隣接するイオン店内での販売会等を行い、地元の方々も楽



温室内の園芸作業

しみにしてください。など地域に根差した就労支援を目指しています。

短期入所は6床あり、比較的状态が安定し医療的管理を必要としない方やご家族のレスパイト、緊急時の体験の場としてご利用される方が多くみられています。相談支援センター

結では、特定・一般相談の他、銚子市より地域生活支援促進事業の委託を受け「親亡き後」も障害のある方々が地域や住み慣れた場所での安心して自分らしく暮らしていただけるために関係機関と連携しながら体制づくりをおこなっています。利用者様と共に学び成長し、地域に愛される事業所にしていくようご家族のご協力を得ながら職員一同励んでいきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

施設長 関 則子

社会福祉法人佑啓会 ふる里学舎蔵波青年寮

「2021 新生活の開幕」

ネグレクトや身体的な虐待を受けた児童、虞犯事由に該当する児童、特別な事情により親とともに暮らすことが出来ない子ども達の家庭となる、福祉型障害児入所施設「ふる里学舎蔵波青年寮（定員20名、短期入所8名）」が令和3



施設外観

年4月に開設いたしました。

三つの小規模ユニットからなる建物には二人でも使用できる広めの個室を設け、広々としたプレイルームや屋外グラウンドで活発に体を動かせる環境を作りました。また、豊かな自然に囲まれた敷地では四季折々の変化を感じながら、季節の野菜や果物の収穫でほっと一息つける小さな楽しみもあります。



日常の風景

イベントはいつも大騒ぎ、買い物や外出がとにかく大好き、時には集団生活ではよくある規則や喧嘩が嫌になって、仲間とともに協力して楽しくしてしまう子ども達。おいしいごはんを食べ、お風呂で騒ぎ、テレビゲームで笑いあう普通の暮らしを通して、人を好きになることや素直に感謝できる気持ちを大切にしています。長い長いコロナ禍ですが、何でも楽しみに変えられる子ども達の笑顔を見て、職員も大切なことを日々教えてもらっています。

施設長 富岡 将訓

支援スタッフ
から見た!

わが施設の自慢・アピールポイント⑧

平成20年度から37回にわたり95の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は2つの“プチ自慢”です!

印旛・山武ブロック・社会福祉法人まごころ・多機能型事業所・ビーアンビシヤス

～みんなの憩いの場 まごころ庵～



まごころ庵 外観



利用者さんが考案したメニュー



まごころ庵の蕎麦打ち職人

コロナウイルス感染拡大するなか、請負作業の売上減や生活様式が変わり、当法人でも外出イベント、旅行などが中止となりました。感染症対策の為、手洗い、うがい、アルコール消毒の徹底、検温によるチェックが毎日実施されています。通所施設であるのかかわらず、コロナウイルスが始まってから2年近く利用者さん及び職員からは一人も感染者が出ていない事が不幸中の幸いだと感じております。今後も法人で今できる感染症対策を徹底してまいります。

施設に併設されているまごころ庵という蕎麦屋があります。今年でお店が開店してから19年目を迎えることが出来ました。コロナ禍の中、ニュースでは、飲食店の売上が減少し経営難

との報道がありますが、地域の方に認知され、まごころ庵はコロナ以前と変わらず、集客が安定しています。これは、利用者さんが日々の努力を怠らず、頑張っている成果だと感じています。そば粉は北海道産を使用し、利用者さんが毎日蕎麦打ちに励んでいます。昨年の大晦日には、昼間の営業時間にもかわらず百名を超えるお客様にご来店して頂きました。お店のメニューは定番商品だけではなく、利用者さんが考案したメニューがあります。もし成田市に来る機会がありましたらついでに是非お立ち寄り下さい。コロナ禍を吹き飛ばす最高の笑顔でお出迎え致します。

副主任 鈴木 博貴

市原・君津ブロック・社会福祉法人嬉泉・嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦・袖ヶ浦ひかりの学園

～小枝から焼き芋～ そしてパン販売に!!



袖ヶ浦ひかりの学園 外観



焼き芋販売の車両



学園内の風景

袖ヶ浦ひかりの学園は、昭和59年に開設した障害者支援施設です。利用者は53名（男性42名、女性11名）。平均年齢53.43歳、最高齢63歳です。開所4年後の昭和63年より『選択的作業指導』ということで作業活動が始まりました。現在は製パン、製菓、ふりかけ製造、販売、解体作業『エコファクトリー』、アトリエAUTOSの6種の作業を提供しております。それぞれの作業にはそれぞれの歴史がありますが、一つ販売について簡単に紹介させていただきます。

開設当初、外に落ちていた小枝を集めるという拘りを持つある一人の利用者が居りました。その方は集めた小枝を最終的に当時学園内にあった焼却炉の燃える火の中に投じて燃える様子を見るといったことをやっていた楽しんでいました。普通なら『危ない拘り行為』として止める方向で支援を展

開するところですが、当時の職員は「この拘りから何か生み出せないか」ということで、その『何か』を暫く考えていたそうです。そこで思いついたのが焼き芋でした。感覚的に楽しんでいた小枝燃やしの炎の中に、芋が投げられる。すると当然のことながら焼き芋が出来上がる。感覚的に楽しんでいた行為が現実的な目的に繋がったというわけです。そうして焼き芋販売が始まり、パンの製造が本格的になって現在のパン販売に繋がりました。小枝を集めていた方（現在はおりませんが）は販売で電卓を片手に会計担当として活躍しました。当然小枝を燃やす拘りはいつの間にか消えていました。

指導主任 霧生 弘長

千葉知協 トピックス

第25回 千葉ゆうあいピック駅伝大会 報告



ハーフマラソンの部

令和4年1月23日(日)、第25回千葉ゆうあいピック駅伝(千葉県知的障害者陸上競技協会等主催、本協会等後援)が千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で開催されました。昨年は新型コロナウイルスの緊急事態宣言下で中止されましたが、本年は、イベントは実施可能という政府の方針に従い、厳重な感染対策を行って実施されました。12月中旬の申し込み締め切り時には44チーム184名の参加でこれも例年に比べて少なかったのですが、当日はコロナの影響で辞退するチームが相次ぎ、17チーム94名と半減してしまいました。

エイス種目は約5kmの距離を3人でつなぐ種目で、男子の部には19チームのエントリーでしたが、実際に出場したのは6チームでした。それでもレースは白熱し、1区では全国障害者スポーツ大会千葉県代表の川下葵選手が女子選手ながら男子選手をしり目に区間賞の走りでダイバーシティチームを1位に押し上げました。第3区になるとダイバーシティチームとは8秒差だった3位のふる里学舎Aチームの永野隼人選手が区間賞の激走でなんと逆転で優勝しま

した。3位にはアンカーで順位を上げたふる里学舎Bチームが入りました。1区間ごとに各チームの順位が目まぐるしく変わり、手に汗握る展開に会場は興奮のつぼとなりました。その他の部門の主な上位の成績は次の通りです。

男子ハーフ(6区間、19・61km) 優勝：ひかりAC(ひかり学園)。クォーター(5区間9・88km) 男子 優勝：ダイバーシティ、準優勝：ふる里学舎 第3位：KYOYO B(流山高等学園)。エイス(3区間4・88km) 男子 優勝：ふる里学舎A、準優勝：ダイバーシティ、第3位：ふる里学舎B。同女子 優勝：不二学園。同壮年女子 優勝：ひかりAC(ひかり学園)。

成績の詳細は千葉県知的障害者陸上競技協会のHPに掲載されています。

<https://www.makinonikai.or.jp>

スポーツ文化委員会 藤崎 明

第30回 さわやか芸能発表会 報告



最優秀賞～舞台発表 大久保学園サクシード

令和3年12月7日(火)、千葉県文化会館(千葉市中央区)にてさわやか芸能発表会を開催しました。昨年の第29回はコロナの影響で中止となりましたが、今年は何とか開催にこぎつけました。とはいえず、会場では昼食

が摂れなくなること、幕間では消毒して感染対策を徹底することから、発表団体は例年の半分以下の5団体に絞られました。また、展示部門は密を避けることから中止となりました。

舞台発表では、参加団体が少なくなったのを埋めるかのような熱演が続き、審査員の方々も審査にはたいへん苦勞されたと前田潤悦審査委員長の講評もありました。その中で最優秀賞には僅差ではあったものの実績のある大久保学園サクシード(楽音演奏)が見事その栄冠に輝きました。優秀賞はしもふさ工房(合唱・ダンス)、富里福葉苑(ダンス)、第2ひかり学園(ダンス)、ひかり学園(ダンス・楽音演奏)でした。

ゲストはトランペッターの田尻大喜さんでした。トランペットの演奏はこれまで例がありませんでしたが、会場は大いに盛り上がり、例年よりも短い時間ではありましたが、充実した一日となりました。

次の第31回は12月6日(火)に開催が決定しています。次回大会では今回よりも多くの発表団体が出演できるものと期待しています。

スポーツ文化委員会 藤崎 明

事務局便り

事務局長 千日 清

感染症の拡大と各事業所のご苦勞は身に染みております。重症者が出ないことを祈るばかり。職員ひとりひとりの頑張りに深く御礼です。協会の職員派遣で痛感する結束力。一日も早い収束を心から願います。

編集後記

くすのき苑 秋山 直樹

私の施設にもクラスターが発生。混乱する現場。不足する職員、物資。多くの方からの支援と励まし。感謝とともに絆の大切さを改めて感じました。支え合う力、助け合う力、結びつく力。大切に、育てていきたい。ありがとうございます。